

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	朝霞市立朝霞第一小学校 令和7年度第3回学校運営協議会	
開催日時	令和7年11月28日（金） 午後3時30分から午後5時00分まで	
開催場所	朝霞市膝折町4-11-7 朝霞第一小学校 北校舎2階 なでしこ会議室	
出席者及び欠席者の職・氏名	<p>出席者</p> <p>朝霞第一小学校 校長 金子 二郎</p> <p>朝霞第一小学校 PTA 会長 太田 剛</p> <p>膝折宿町内会副会長 大橋 千栄子（副委員長）</p> <p>地域有識者・企業経営者 槁本 尚樹</p> <p>朝霞第一小学校 学校応援団 石丸 梢</p> <p>朝霞市南西地区民生委員児童委員 藤田 康枝</p> <p>元朝霞市副市長 關野 武男</p> <p>元朝霞第四小学校 校長 内田 隆（委員長）</p> <p>菩提樹の森幼稚園 園長 佐藤 順與</p> <p>欠席者 なし</p>	
議題	<p>1、学校長あいさつ</p> <p>2、これまでの学校経営について、協議及び懇談</p> <p>3、学校評価のお願い</p> <p>4、来年度の学校経営について</p> <p>5、その他</p>	
会議資料	<p>・次第</p> <p>・学校だより7月号・9月号・10月号・11月号</p> <p>・朝霞市立朝霞第一小学校盗撮防止ルール</p> <p>・学校評価用紙</p>	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 校長による確認	
傍聴者の数	1人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【審議概要】

1、学校長あいさつ

- ・金子 二郎 校長あいさつ

2、これまでの学校経営について、協議及び懇談

- ・職員自ら盗撮防止に向けて動いたところへの称賛。
- ・事件に関して厳しい指導だけでなく、職員に対して両面の指導を。
- ・事故リスクのある教職員について、何か採用の段階でできることはないのか。
- ・運動会等の行事で見ていて感じたが、子供たちの動きが大変良かったことは、教職員が指導していることがつながっている。
- ・お守り型のＩＣレコーダーに対して対策はあるのか。
- ・日頃から家庭との信頼関係を築くように努めることが大切である。
- ・ランチタイムコンサートが大変素晴らしかったが、市内の全ての小学校で実施しているのか。学年の保護者以外は見ることはできないのか。地域とのつながりをつくるためのツールの一つになる。キャパシティの面が課題である。配信等も検討すべきか。

3、学校評価のお願い

- ・今回、提出をお願いする様式を用意した。年末に教職員の自己評価をまとめ、年明けにお届けする予定。それを踏まえて評価をお願いするので、返送用の封筒もお届けする。データを利用すれば、まとめる段階でも負担軽減につながるのでは。

4、来年度の学校経営について

- ・第４回で学校評価を扱い、第５回で来年度の学校経営方針を示し意見をうかがう。この４年間で子供たちが育ってきている方向性については、基本的に間違っていないと捉えている。これまでの延長線上で考えたい。令和８年度も皆様に信頼していただける地域に開かれた学校づくりを方針としたい。
- ・変更点の一つは、年間行事のうち、林間学校の目的地が埼玉県の名栗から群馬県の赤城になる。
- ・二つ目は、改正給特法が施行され、朝霞市教育委員会が業務量の適切な把握・管理のための計画を策定することなどが義務付けられた。この計画を総合教育会議に報告し市民へも公表し、市全体で共有することとなった。各学校でも経営方針に業務量管理や健康確保措置を含めた内容を盛り込んで、学校運営協議会の承認を得ることが義務付けられた。この点も含めてご意見をうかがうことになる。
- ・地域学校協働活動本部で、なかなか教室に入ることのできない児童の指導を、藤田委員にもお手伝いいただいている。皆さんにお手伝いいただくことが、教員の業務量を減らすことにもつながる。地域の皆様にお力添えいただく中で目指していきたい。
- ・様々な所で言われているが、働き方改革働き甲斐改革となるべきであり、働き甲斐を満たせる制度が必要である。
- ・理念を共感できれば、仕事は早く進むので、若手の教育と同時に、我々自身の成長も。
- ・子供たちのために頑張っているということが、どうすれば保護者に伝わるか、お手紙やアンケートで聴いてみるのはどうか。
- ・お手伝いに来る保護者は学校に関心があり、子供の様子を見られたり、教師とのやりとりを見られたりするのありがたいと言っている。

- ・Pサポの活動が充実し多くの方に来ていただけるようになった。保護者にも楽しんでいただける機会があった。見ていた方にご理解いただける面はある。参加するきっかけになるよう、声を掛けていきたい。
- ・来年度が心配。今年度、運動会とかとても良かった。保護者の協力も良かったし、すごく良い一年だった。先生方の雰囲気もすごく良かった。
- ・中心となっている職員の在籍が長い。頼りになる先生がいなくなったらと心配。
- ・そのための学校運営協議会として、仮に校長が代わっても、学校運営協議会として今までの流れを汲んで「これが一小の強みだから」ということであれば、大きなマイナスはない。新たに入ってくる職員もそれぞれの学校で経験したもの、私たちがこれまで持っていないものを持ってきてくれる。今年一年私にとっても本当に素晴らしい年だったが、一年前にここまで予想していたかと言われればそうではない。もっと不安要素があって「来年、大丈夫かな」と心配していた。そのためにも皆様には物申していただくことが必要だと考えている。
- ・今の枠組の中では学校運営協議会の機能は発揮しにくいので、枠組について見直してもらってもよいのでは。
- ・本来のものは、取締役会のようなものではないのか。今後、条件整備が必要になってくると思われる。
- ・学校評議会からコミュニティスクールになってきた。校長として、描いていたものからするとどれくらいの進捗状況か。
- ・進捗としてはまだまだで、地域学校協働活動本部の活動をレールに乗せることが目標であり、道半ばというよりも全く進んでいないかと。が、Pサポをはじめ個別に手を挙げてくださる人は増えており、地域コミュニティとしての運営は進んでいるかと。ただ、個人の力量によるところが多分に多いので、潜在的な人を集めオーガナイズしていかなければならない。皆でそれをやっていこうというものをつくらない限り、持続可能なコミュニティスクールにはならない。
- ・来年度、推進レベルを上げるためにコミュニティスクール推進委員といったものをつくるのはどうか。
- ・協力者を募るとしたらどのレベルまで声を掛けるかのベースが必要になる。子供に関わるプライバシー問題もある。手伝ってもいいよと言ってくれる方も「誰でもいいの？」となる。子供に関わるためにどんなことができるか、ある程度の目安が欲しい。
- ・PTAとしてはいい方向に進みつつある。次は、なでしこ応援隊とか町内会、民生委員だとか、運営協議会で顔を合わせているが横のつながりが弱い。お互いに気を遣う面があるのかもしれない。この辺りを何とかしていきたい。「一緒にやりましょう」という話を進めていきたい。つながりをつくっていきたい。
- ・地域の中での小さなつながりからはじめて、それを拡げていけば一歩踏み出せる人が増えるかもしれない。町内会では子供会をここで作り、イベントでも多くの人に参加している。
- ・一小の中でもいろいろなものが出てきている。市内でも同じように共通したところもあるかもしれない。昨年度も教育委員会にお願いしたが、今年も伝えていきたい。
- ・地域のコミュニティFMとして、今後、地域の小中学生の生の声を聴こうという企画が進んでいるため、説明させていただこうと思う。